

教育課程研究指定校事業実施計画書（平成28年度）
 — 研究課題 2（5）校種間連携 —

都道府県・指定都市番号	43	都道府県・指定都市名	熊本県山鹿市鹿北町
-------------	----	------------	-----------

1 研究協力校の概要

[小学校]

ふりがな 学校名	やまがしりつかほくしょうがっこう 山鹿市立鹿北小学校						ふりがな 校長名	かわの ふじお 川野 富士夫				公立・国立・私立 (○で囲む)			
所在地	〒861-0601 熊本県山鹿市鹿北町四丁1469番地1 電話 0968-32-3334 FAX 0968-32-3338 e-mail y-kahokues@educet01.plala.or.jp														
(平成28.4.1見込)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	教員組織	校長	教頭等	教諭	養護教諭	事務職員	その他	計
学級数	1	1	1	1	1	1	6		1	1	11	1	1	1	16
児童数	23	20	28	15	29	22	137	特記事項							

[中学校]

ふりがな 学校名	やまがしりつかほくちゅうがっこう 山鹿市立鹿北中学校						ふりがな 校長名	こおり いちろ 郡 一路				公立・国立・私立 (○で囲む)		
所在地	〒861-0601 熊本県山鹿市鹿北町四丁1469番地1 電話 0968-32-2019 FAX 0968-32-3797 e-mail y-kahokujh@educet01.plala.or.jp													
(平成28.4.1見込)	1年	2年	3年	計			教員組織	校長	教頭等	教諭	養護教諭	事務職員	その他	計
学級数	1	1	1	3				1	1	11	0	1	2	16
児童数	28	26	27	81			特記事項							

[高等学校]

ふりがな 学校名	高等学校						ふりがな 校長名					公立・国立・私立 (○で囲む)		
所在地	〒 電話 FAX e-mail:													
(平成28.4.1見込)	1年	2年	3年	4年	計	教員組織	校長	教頭等	教諭	養護教諭	事務職員	その他	計	
学級数														
児童数							特記事項							

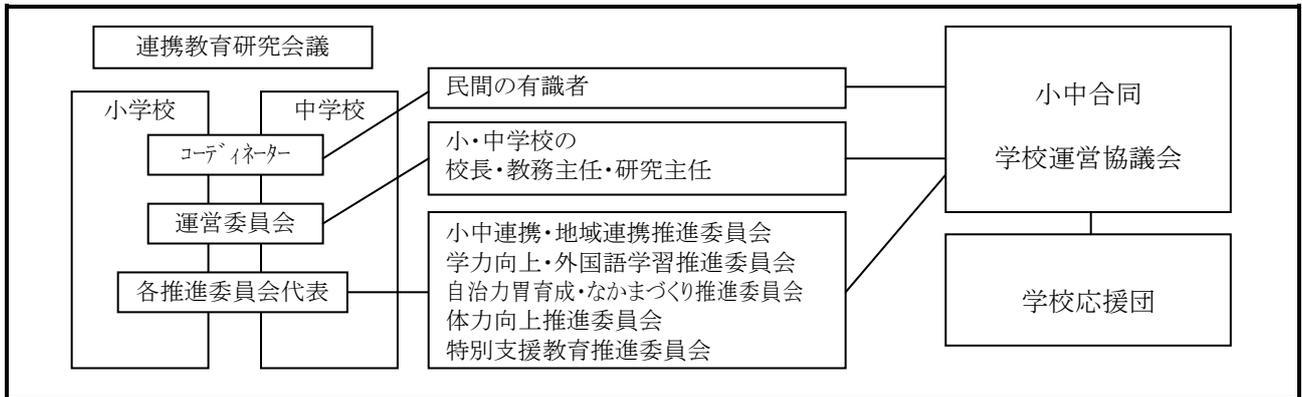
2 研究主題等

推進地域等 における研 究主題	児童・生徒の発達段階を踏まえ、9年間の連続した「学び」の確立と、インクルーシブ教育システム構築を融合させた学習指導の工夫・改善
研究主題設 定の理由	<p>(1) 特別支援学級在籍児童・生徒の増加、通常学級在籍児童・生徒への個別指導の比重増加が確実に予想される状況を踏まえて、学習内容定着の効果を上げるための教育課程の編成及び9年間の連続した学びのための学習指導の工夫・改善を行うことは喫緊の課題となっている。そして、小・中学校が連携して、インクルーシブ教育システムの構築をさらに進め、合理的配慮の充実、UDの授業力向上等を踏まえた一貫教育体制構築に取り組むことは、児童・生徒の学力向上、生きる力育成にとって不可欠である。</p> <p>(2) 鹿北町の3つの小学校は、3年前に統合し1つの小学校(鹿北小学校)となり、鹿北中学校に隣接する形でつくられた。現在、鹿北町にある1つの小学校と1つの中学校は併設型の小中一貫教育を進めるための環境が整っている。今後、教職員や児童・生徒の交流や連携を深め、小学校、中学校のそれぞれの文化を理解し実践につなげることで、個々の教職員の授業力や指導力の向上を図ることができると考える。上記のような理由により研究主題を設定した。</p>

研究の内容	<p>(1) 小・中学校の知・徳・体実態調査の実施・分析・課題把握</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 合同アンケート調査の実施及び分析、知・徳・体の課題把握 ② 課題克服のための具体的な実践事項の検討・提案・実践 ③ 定期的なアンケート調査実施による成果と課題の分析及び志向 <p>(2) 9年間の連続した学びとインクルーシブ教育システムを意識した学習指導の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> ① UDの授業力向上と合理的配慮の充実を意識した学習指導の工夫・改善 ② 小・中学校のなめらかな接続を図るための小学校6年生への一部教科担任制導入 ③ 小学校の外国語学習と中学校の英語学習の効果的な接続 ④ 小・中学校及び地域との連携を重視した体力向上プログラムの作成 ⑤ 小・中一貫教育を充実させるための義務教育学校視察・研修 <p>(3) 児童・生徒及び教職員の連携・交流推進</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童・生徒の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・各種行事を通しての交流計画作成・推進 ・読書活動、体力向上及び部活動、音楽活動等による小・中連携、地域連携推進 ・児童会活動と生徒会活動の連携と協働、リーダー育成と集団の質の向上 ② 教職員の交流 <ul style="list-style-type: none"> ・義務教育学校開設を視野に入れた研修の充実 ・小・中合同研究授業及び授業研究会の実施 ・鹿北中学校区保・小・中連携協議会の開催及び各部会活動による連携強化
-------	---

3 研究体制等

(1) 全体図



(2) 校種間連携協議会の構成員・人数

連携教育研究会議	
(1) コーディネーター (1名)	・・・民間の有識者
(2) 運営委員会 (6名)	・・・小・中学校の校長(2名)・教務主任(2名)・研究主任(2名)
(3) 各推進委員会代表 (10名)	※以下の各委員会構成員より、それぞれ2名の代表が会議に参加する。
○小中連携・地域連携推進委員会 小中教頭・小中教務主任・市民センター職員・社会福祉協議会・校区長	
○学力向上・外国語活動推進委員会 小学校教員・中学英語担当・ALT・必要に応じて各教科担当	
○自治力育成・なかまづくり推進委員会 小中特別活動担当教員・小中的人権教育主任	
○体力向上育推進委員会 小中体育主任・地域社会体育活動指導者・社会教育活動指導経験者	
○特別支援教育推進委員会 小中特別支援教育コーディネーター(2名)・小中特別支援学級担任 ※必要に応じて保育園・行政・関係機関職	

4 研究計画

	実施時期	取組の計画	期待される成果
一年次	一学期	<p>研究共有・推進計画・目標設定</p> <p>連携教育研究会議 ・計画目標・細案・・・義務教育学校開設道筋運営委員会 ・研究概要説明・・・保護者及び地域の方々 ・先進校視察・・・義務教育学校の教育課程調査 推進委員会 ・小中連携・・・ ・学力向上・・・ ・自治力育成・・・ ・体力向上・・・ ・特別支援・・・</p> <p>○小6一部教科担任制導入 ○現状分析及び計画細案検討・決定・周知 ○連携・一貫教育の具体的な目標・到達点の提示 ○目標に向けての実践開始</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究主題及び研究計画を提示することで、これからの鹿北小・中学校の方向性を明確にできる。 ○ 小・中学校が連携してのインクルーシブ教育システム構築を重視した学習指導の工夫・改善について、教職員、生徒、保護者、地域の方々との共有化を図ることができる。 ○ 小学6年生への一部教科担任制導入により、中一ギャップ解消と小学校から中学校へのなめらかな接続を図ることができる。
	二学期	<p>推進委員会を中心とした実践化</p> <p>連携教育研究会議 ・推進委員会実践の進捗状況確認・指導・助言 運営委員会 ・先進校視察・・・義務教育学校開設後の成果と課題調査 ・評価・検証・・・アンケート→成果と課題・志向 推進委員会 ・小中連携・・・行事等での保小中連携推進 ・学力向上・・・検証授業→兼務教科・UD授業 ・自治力育成・・・小中合同行事の計画・実施 ・体力向上・・・合同体育・部活動と社会体育連携 ・特別支援・・・合理的配慮の充実・スマイル連絡会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携から小中一貫教育への意識を高めることで、9年間を見通した児童・生徒の育成に取り組むことができる。 ○ 推進委員会の研究・実践を進めることにより、児童・生徒の学力向上、体力向上へとつなげることができる。 ○ 検証授業により、取組の成果と課題を分析し、次の実践に生かすことができる。
	三学期	<p>成果と課題分析・活用</p> <p>連携教育研究会議 ・1年間の成果と課題分析・評価・次年度の実践について協議 運営委員会 ・先進校に学ぶ・・・小・中一貫教育の成果と課題 ・評価・検証・・・アンケート→成果と課題・志向 推進委員会 ・小中連携・・・ ・学力向上・・・ ・自治力育成・・・ ・体力向上・・・ ・特別支援・・・</p> <p>実践の継続 年間の反省 ・成果と課題、 ・次年度への志向 ・研究記録整理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 義務教育学校開設を視野に入れた鹿北小・中学校の教育方針・システムを、保護者や地域の方々に具体的に示し理解を得ることができる。 ○ UDの授業、合理的配慮の提供を重視した検証授業を通して、個別支援の可能性について見つけ協議することができる。 ○ 小学6年生への一部教科担任制導入の成果と課題を分析し、次年度の実践のさらなる充実につなげることができる。

	実施時期	取組の計画	期待される成果
二年次	一学期	<p>学習指導の工夫・改善</p> <p>連携教育研究会議 ・運営委員とともに、義務教育学校開設を視野にいた環境整備 運営委員会 ・先進校研究・・・資料収集→活用 ・義務教育学校開設を視野に入れた環境整備 推進委員会 ・小中連携・・・日常生活での交流推進</p> <p>学習指導の工夫・改善の視点 UDの授業・合理的配慮充実 小中連携・個別支援の充実</p> <p>・学力向上・・・ ・自治力育成・・・ ・体力向上・・・小中合同体力向上月間の設定 ・特別支援・・・指導計画・支援計画の共通理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小学校文化と中学校文化を融合させることで、教職員の意識改革を促し、授業力、指導力の向上につなげることができる。 ○ 児童・生徒の学力向上、生きる力育成を9年間の接続の中で図ることができる。 ○ 義務教育学校開設を視野に入れた環境整備を行うことで、小・中学校のさらなる連携や一貫教育の具体的な取組、今後の計画や課題についても明らかにできる。

<p style="text-align: center;">二学期</p>	<p style="text-align: center;">研究主題達成→成果と課題分析</p> <p>連携教育研究会議 ・2カ年の研究の成果と課題提示</p> <p>運営委員会 ・研究主題・・・達成状況の把握・成果と課題整理 ・評価・検証・・・成果と課題整理・成果報告会開催</p> <p>推進委員会 ・小中連携・・・ ・学力向上・・・ ・自治力育成・・・ ・体力向上・・・ ・特別支援・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ○各推進委員会の実践による成果と課題の整理。 ○具体的な数値の変化、生徒の変容から、研究の成果を分析する。 ○成果報告会の開催 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年間の研究の成果と課題を分析し発表することで、さらなる課題を明確にすることができる。 ○ アンケート調査の数値化や各種学力検査結果により、目に見える形で研究の成果を確認することができる。 ○ 自己評価、学校関係者評価、第三者評価を行うことで、より精度が高い研究に対する評価を得ることができる。その評価を次の実践に生かすことができる。
<p style="text-align: center;">三学期</p>	<p style="text-align: center;">成果と課題→新たな目標設定</p> <p>連携教育研究会議 ・成果と課題をもとに、新たな研究目標設定</p> <p>運営委員会 ・研究成果報告・・・保護者及び地域の方々</p> <p>・新たな研究目標設定・・・研究会議との連携</p> <p>推進委員会 ・小中連携・・・ ・学力向上・・・ ・自治力育成・・・ ・体力向上・・・ ・特別支援・・・</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ○現状把握アンケート実施 ○2年間の研究の成果と課題から新たな目標設定 ○目標達成に向けての計画立案 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 2年間の研究実践により、鹿北独自の教育スタイルを創り上げることができる。そして、その教育スタイルが児童・生徒の学力、体力、生きる力の向上や育成を強力に進めることとなる。 ○ インクルーシブ教育システム構築による学習指導の工夫・改善は、9年間の連続した学びを保障し、児童・生徒の学力及び意欲の向上につながる。 ○ 2年間の研究実践は、教師の授業力・指導力を確実に向上させる。

5 研究のまとめの見通し

<p>研究のまとめの方向性</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 児童・生徒の実態を踏まえた連続性のある教育課程の編成による学力の向上 (2) 個別支援、合理的配慮の充実とUDの授業力向上による教員の資質向上 (3) 長期にわたる児童・生徒理解、異学年交流の充実による生きる力の育成 (4) 9年間を見通した指導体制の確立によるギャップの解消 <p>研究成果の検証方法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) アンケート調査の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 児童・生徒、保護者アンケートの定期的実施による成果と課題分析 (2) 自己評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 計画の進捗状況、目標達成状況の検証・評価と実践化 (3) 学校関係者評価の実施（小・中合同学校運営協議会による検証） <ul style="list-style-type: none"> ○ 各種アンケート・評価の結果の提示による成果と課題分析 (4) 第三者評価の実施 <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部の専門家等による自己評価及び学校関係者評価に対して、また、学校運営の状況についての評価 (5) 各種調査結果の分析 <ul style="list-style-type: none"> ○ 県学力調査や全国学力学習状況調査等の結果や経年変化の分析による学力面、生活面での変化（成果・課題）の把握
